

産業安全専門部会

安全管理活動分科会

会場名 福岡市民会館／福岡市中央区天神 5-1-23

最寄駅 地下鉄「天神」駅／西鉄バス「市民会館前」(4 ページ交通案内⑦)

10月24日(木)のプログラム

9:30 開始

- | | | | | | |
|---|----------------------|----------------------------|-------|-------|--|
| 1 | 安全衛生管理活動への取組みについて | 加美町森林組合 加美町森林組合 参事 | 橋詰 雅博 | 9:55 | 森林組合職員、作業員が一体となった安全用具の研究開発と死亡事故発生による労働安全対策への取組みの成果について発表する。 |
| 2 | 車両工場の安全推進活動について | 四国旅客鉄道株多度津工場 技術センター科車両技術主任 | 中上 一 | 10:20 | JR 工場作業の特徴とその傷害の形および過去の傷害を分析して、明るい「ゼロ災」職場を作るための安全推進活動について、その取組みを述べる。 |
| 3 | 再発防止に基づく店社安全管理活動の改善 | 株竹中工務店神戸支店 安全環境 G 安全環境課長 | 平井 司 | 10:55 | 災害の再発防止対策に基づき店社の安全管理活動を見直し、ソフト面での種々の安全管理手法を採り入れ安全管理のレベル・アップ向上を図った事例。 |
| 4 | IT 活用による仕入先工事の安全管理 | トヨタ自動車株 プラントエンジニアリング部 主担当員 | 中谷 泰夫 | 11:20 | 当社構内での仕入先による工事の安全管理を充実させるため、IT 技術を駆使しシステムを構築したので紹介する。 |
| 5 | 作業実態チェックパトロールによる安全活動 | NKK 京浜製鉄所 厚板工場係長 | 富田 誠矢 | 13:00 | 管理監督者が作業者の視点で作業を点検する作業実態チェックパトロール活動により、安全活動の PDCA サイクルが機能し、活動の活性化が図れた。 |

(11:45~13:00 昼休み (12:30~12:50 安全・衛生・快適考案部門金賞作品ビデオ上映)) 13:00

平成14年度 工夫・改善・活動事例コンクール 安全衛生活動部門優良賞作品発表 (内容詳細は 28 頁に掲載)

(13:50~14:00 休憩) 14:00

- | | | | | | |
|---|----------------------|-------------------------|-------|-------|---|
| 6 | 医療機関の安全管理実施状況と産業医の活用 | 労働福祉事業団大阪産業保健推進センター 相談員 | 酒井 英雄 | 14:25 | 大阪府下の全病院に質問票を送付し、医療機関における労災事故防止活動・医療事故防止活動の実態を調査し、産業医の役割について考察した。 |
| 7 | 労働安全衛生法に沿っての 30 年間 | 大阪市水道局厚生課事務職員 | 大喜多啓价 | 15:00 | 安衛法は偉大である。法に添っての 30 年間で中災防の導きにより、安全衛生の向上が明らかに残り将来への基礎となつて、安全文化への参加を決意させる。 |

(14:50~15:00 休憩) 15:00

産業安全専門部会 安全管理活動分科会

15:00

シンポジウム

—労働安全衛生法制定 30 周年記念—

労働安全衛生法 30 年の回顧とこれからの安全衛生管理

講師 白鷗大学法学部教授

労働福祉事業団福岡産業保健推進センター相談員

(株)メルコブレインズシニアマネージャー(兼務:三菱電機株)

労働安全コンサルタント

中災防常務理事

司会 RST トレーナー会会長

畠中 信夫

馬場 快彦

小野 道實

上江洲盛治

木村 嘉勝

野原 石松

17:00 終了

10月25日(金)のプログラム

9:30 開始

- 8 IT ツールを活用した建設工事現場の安全管理
建設工事現場の日常安全管理活動をパソコンや携帯情報端末を活用してデジタル化を図り作業の安全性や生産性を向上させるシステムを開発・活用した。
(株)竹中工務店国立国会図書館関西館
(仮称)建築工事京都支店作業所 大道 泰弘
9:55
- 9 「温もりの中にも、妥協・遠慮のない職場」を目指して
協力会社と出光は運命共同体との認識で、一体感もち、安全活動を進めているが「決めたことを守る」という基本がなぜ遵守できないかを切口に活動を紹介。
出光千葉建設保全協会
安全衛生委員長 祝迫 悟志
10:20
- 10 IT を駆使した 365 日安全管理活動
各種の勤務形態が混在する職場でホームページで安全情報を伝達し最新画像のKYTで注意喚起するなどITの利便性を駆使した持続的安全管理活動を紹介。
九州日本電気株
工務センターシフト主任 坊村 賢児
(10:45~10:55 休憩) 10:55

講演 労働災害に対する法的責任

弁護士 山上 知裕

(12:05~13:10 昼休み (12:40~13:00 安全・衛生・快適考案部門金賞作品ビデオ上映) 13:10

- 11 技術員・事務職に対する災害防止活動
更なる労働災害撲滅を目指すため、技術員・事務職に対する労働災害防止活動についてそのあり方を研究し、結果を五つの提言としてまとめた。
自動車産業経営者連盟安全衛生委員会第一部委員
日野自動車株総務人事部安全健康推進室チームリーダー 関根 敦行
13:35
- 12 「安全衛生集中診断」による予防安全活動
従来のパトロール点検では安全衛生面の危険要因が十分除去できていなかったの場所を選定して危険要因の先取りする「安全衛生集中診断」の活動報告である。
東日本旅客鉄道(株)大宮支社
大宮工場車両技術主任 山崎 高志
(14:00~14:05 休憩) 14:05

講演 安全情報の共有から有効活用へ

電気通信大学大学院情報システム学研究科助教授

田中 健次

15:15 終了

(15)

産業安全専門部会 機械・設備等の安全分科会

会場名 都久志会館／福岡市中央区天神 4-8-10

最寄駅 地下鉄「天神」駅／西鉄バス「市民会館前」(4 ページ交通案内⑧)

10月24日(木)のプログラム

9:30 開始

- | | | | |
|------------------------|---|-------|--|
| 1 | 車両基地における触車事故ゼロへの取組み
東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部
美濃太田車両区車両技術主任 | 佐藤 昭司 | 基地内を往来する鉄道車両と作業者との接触事故を防止するための諸施策を講じ、車両と作業者相互間の視認性を向上させることで安全の確保を図った。 |
| 9:55 | | | |
| 2 | 安全帯胴綱フック改良による墜落防止事例
北海道電力(株)釧路支店電力部送電グループ | 小島 修一 | 送電鉄塔からの墜落死亡災害が発生。今まで想定していなかった墜落原因を究明し、原因となった胴綱フックの改良など同種災害防止対策に取り組んだ。 |
| 10:20 | | | |
| 3 | 接地線断線検出装置付き検電器
東日本旅客鉄道(株)高崎支社
設備部電力課主席 | 中里 悦朗 | 検電器の使用前に、接地線を含めた装置機能全体の良否判定を行い、接地線断線による無加圧状態の誤判断を防止できる機能を付加した研究である。 |
| (10:45~10:55 休憩) 10:55 | | | |
| 4 | 絶縁肩あての耐電圧試験を安全に行う
東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部
新城工務区電気係 | 阿部 真一 | 絶縁肩あての耐電圧試験方法について、簡素化、試験の安全確保に取り組み、新たに絶縁肩あて耐電圧試験器を作成し提案をした。 |
| 11:20 | | | |
| 5 | 通信ケーブル布設時の防護管装着工具の開発
新生テクノス(株)静岡支店
静岡信号通信営業所所長代理 | 岸 昇吉 | 通信ケーブル布設時、立上り箇所、屈曲箇所等で防護管を装着する必要があり、安全性、作業性、品質性、時間性等の面で効果のある工具を開発した。 |
| 11:45 | | | |
| 6 | キャリパプレーキ检修作業の安全対策
東海旅客鉄道(株)新幹線鉄道事業本部
浜松工場車両係 | 服部 文和 | キャリパプレーキ作業場転移に伴い、以前発生していたヒヤリハットの対策検討・実施を行い、新检修体制を確立し、ヒヤリハット0%という成果を得た。 |

(12:10~13:20 昼休み (12:50~13:10 安全・衛生・快適考案部門金賞作品ビデオ上映) 13:20

機械災害の防止に向けて～機械の包括的な安全基準の有効な活用法～

基調講演 機械の包括的安全基準の産業現場への活用—産業安全研究所での最近の研究成果を踏まえて
独立行政法人産業安全研究所機械システム安全研究グループ主任研究官 梅崎 重夫

(14:30~14:40 休憩) 14:40

シンポジウム

講師	旭硝子(株)環境安全保安統括本部環境安全室主幹 花王(株)環境・安全推進本部 (株)ブリヂストン安全衛生管理室長 トヨタ自動車(株)安全衛生推進部担当部長	相川 孝治 佐藤 干城 水野 恒夫 古澤 登
助言者	独立行政法人産業安全研究所機械システム安全研究グループ主任研究官	梅崎 重夫
司会	中災防技術支援部次長	桑川 壮一

17:00 終了

産業安全専門部会 機械・設備等の安全分科会

10月25日(金)のプログラム

9:30 開始

- | | | |
|---|--------------------------------------|---|
| 7 | 大型タンカー原油揚荷作業時の事故撲滅対策 | 大型タンカーから海底パイプラインを通して陸上のタンクへ原油を揚荷する作業を安全に進めるため、作業方法及び設備を改善し、危険要因を排除した。 |
| | (株)出光プラントック 徳山事業一課班長 原田 敏弘 | |
| | 9:55 | |
| 8 | 送電線特高ケーブルの保守における安全管理 | 送電線地中ケーブルの保守管理において、点検孔として設けてあるマンホールのフタ開閉および室内環境の問題点について考察したものである。 |
| | 東海旅客鉄道(株)静岡支社
浜松電力区電気技術主任 白井 尚行 | |
| | 10:20 | |
| 9 | 作業用車両のジャッキアップ作業の改善 | ジャッキアップ用アタッチメントを考案し、車体の下にもぐり込んで行っていたジャッキアップ作業を、車体側面の作業に変更し、安全性と作業姿勢を改善。 |
| | 東日本旅客鉄道(株)長野電力技術センター
電気技術主任 北沢 幸尚 | |
| | (10:45~11:00 休憩) 11:00 | |

平成14年度 工夫・改善・活動事例コンクール 安全・衛生・快適考案部門金賞作品発表 (内容詳細 28 頁に掲載)

(12:20~13:30 昼休み) 13:30

- | | | |
|----|--|--|
| 10 | 新検修庫における墜転落防止対策の研究 | 保守用車機械検修を行う時、屋根上での高所作業がある。労働災害防止を指導して取り外し可能な金具の検討から試験を行い墜転落防止対策を実施した。 |
| | 東海旅客鉄道(株)新幹線鉄道事業本部
浜松レールセンター施設技術主任 鈴木 弘 | |
| | 13:55 | |
| 11 | 塗装現場における粉じんの環境管理 | 近年、環境問題に関心が寄せられる中、粉じん対策は一向に進まない現状である。そこで、鉄道車両の塗装現場において装置化し改善した事例を紹介する。 |
| | 東日本旅客鉄道(株)
秋田支社土崎工場助役 米屋 英則 | |
| | (14:20~14:30 休憩) 14:30 | |

講演 フェールセーフと安全確認型システム

北九州市立大学国際環境工学部環境機械システム工学科教授 杉本 旭

15:40 終了

20世紀の裏面には、人間と事故との闘いがあった...

中災防新書 技術発展と事故 — 21世紀の「安全」を探る —

● 駒宮 功額 著 ● 新書判 204頁 ● 定価:本体900円+税

お申し込み・お問い合わせ... 中央労働災害防止協会 普及事業部業務管理課まで ホームページアドレス
TEL03-3452-6401 FAX03-3452-2480 <http://www.jisha.or.jp/>

産業安全専門部会 ヒューマンファクター分科会

会場名 アクロス福岡イベントホール／福岡市中央区天神 1-1-1

最寄駅 地下鉄「天神」駅／西鉄バス「市役所北口」(4 ページ交通案内⑨)

10月24日(木)のプログラム

9:30 開始

- | | | | |
|---|--|-------|---|
| 1 | 進化する安全活動「パーフェクト 3M 活動」
川崎製鉄株水島製鉄所
線材棒鋼課ラインマネージャー | 藤原 正 | 従来の安全活動から現場主導の活動に段階的に移行することにより、個人の安全レベル向上だけでなく、グループ全体の活性化にもなった活動事例である。 |
| 2 | 職場自主保全活動を活かした安全活動
日産自動車株横浜工場鍛熱課工長 | 武田 仁 | 自主保全活動を通じ「決めたルールは守れる」風土を醸成し活動を推進した結果、災害危険要因である故障、チョコ停が大幅に減少し安全職場が確立できた。 |
| 3 | 5S3 定定着による安全意識の向上
九州日本電気株第四製造部主任 | 別府 義孝 | 最先端半導体製造ラインで5S3 定向上委員会を発足させ4つの分科会活動毎にテーマを作り不具合改善とモラル向上で安全意識の徹底をした事例である。 |
| 4 | “一声”が仲間を救う！
日本冶金工業株川崎製造所製造部
厚板工場厚板係成切グループリーダー | 後藤 達也 | 2年間で5件のレポート災害を発生させたため、ハード面の対策に合わせソフト面からは「相互注意運動」を展開し災害「ゼロ」をめざし活動した。 |
| 5 | ヒューマンエラーによる災害防止の取り組み
日本地下石油備蓄株久慈事業所
安全環境課消防保安係直長 | 千葉 三雄 | 中災防「安全行動調査」による個人毎の特性を把握し、これをヒヤリハット発掘に結びつけた活動を展開し、自主で分析ソフトを開発した成果を報告する。 |

(10:45~10:55 休憩) 10:55

11:20

(11:45~13:00 昼休み (12:20~12:40 安全・衛生・快適考案部門金賞作品ビデオ上映)) 13:00

第14回安全衛生教育ビデオコンクール表彰式及び入賞作品上映会

(15:00~15:15 休憩) 15:15

講演 航空に学ぶリスクマネジメントーヒューマンファクターの視点

日本ヒューマンファクター研究所研究開発室長兼事務局長
元全日空先任機長

石橋 明

16:40 終了

「信じられる高度なミス」など存在するのか？

中災防新書 「信じられないミス」はなぜ起こる

—ヒューマン・ファクターの分析—

●黒田 勲 著

●新書判 264頁

●定価:本体900円+税

お申し込み・お問い合わせ... 中央労働災害防止協会 普及事業部業務管理課まで ホームページアドレス
TEL03-3452-6401 FAX03-3452-2480 <http://www.jisha.or.jp/>

産業安全専門部会 ヒューマンファクター分科会

10月25日(金)のプログラム

9:30 開始

- 6 安全評価を活用した危険感受性向上活動
日産自動車(株)総合研究所試作技術課主任 竹内 和行
9:55
社内安全評価基準の急所・背景の理解と共有化で1人ひとりの意識を改革し、活きたKY活動の実践により、安全管理状態を格段に向上させた。
- 7 無限の安全へチャレンジ
川崎製鉄(株)水島製鉄所厚板鑄鍛部厚板課ラインマネージャー 岩上 敏之
10:20
安全活動の仕掛けを工夫し、管理者と現場が一体となり、安全意識の強化を図り、ルールに強い、ルールを守る職場体質向上を目指した活動事例である。
- 8 非定常作業の災害防止対策
自動車産業経営者連盟安全衛生委員会第二部会委員
NOK(株)人事部安全課課長 青島 一雄
10:55
各社の具体的な対策事例や再発防止のあるべき姿の検討を通じて非定常作業(保全作業と異常処理作業について)の労働災害防止対策をまとめた。

(10:45~10:55 休憩) 10:55

講演 医療現場のヒューマンエラー対策—総合リスク分析システムの開発と活用

京都大学大学院医学研究科環境衛生学教授 小泉 昭夫

(12:15~13:15 昼休み (12:45~13:05 安全・衛生・快適考案部門金賞作品ビデオ上映)) 13:15

- 9 鉄道沿線における立木伐採作業の事故防止
東日本旅客鉄道(株)
仙台土木技術センター施設技術主任 小野垣信也
13:40
鉄道沿線における立木伐採作業の傷害事故を防止するため、労基法に基づく安全教育を実施し、作業方法や手順マニュアルを作り、安全作業の向上を図った。
- 10 5Sとリサイクルを融合させた安全確保
(株)九電工鹿兒島支店
品質・安全管理グループ長 安井 初雄
14:15
5Sとリサイクルを融合させ従業員の意識を改革し、規律のある安全な明るい職場づくりを推進した事例についてまとめたものである。

(14:05~14:15 休憩) 14:15

講演 ヒューマンファクターズとチーム行動

慶應義塾大学理工学部管理工学科教授 行待 武生

15:25 終了

日本史上の偉人・傑物に学ぶ「とっておきの健康法」!

中災防新書 歴史をつくった人びとの健康法

—生涯現役をつらぬく—

●宮本 義己 著 ●新書判 252頁 ●定価:本体900円+税

お申し込み・お問い合わせ... 中央労働災害防止協会 普及事業部業務管理課まで ホームページアドレス
TEL03-3452-6401 FAX03-3452-2480 <http://www.jisha.or.jp/>

産業安全専門部会 交通安全分科会

会場名 メルパルクホール福岡／福岡市中央区薬院 4-14-52

最寄駅 西鉄バス「九電体育館前」(5 ページ交通案内④)

10月25日(金)のプログラム (この日のみの開催)

9:30 開始

- | | | | |
|---|---|------------------|---|
| 1 | 交通事故“ゼロ”を目指して!!

NTT-Neomeit 関西
経営企画部企画部門安全品質担当・主査 | 堀内 健司 | 弊社の安全サイクルの一つであるCRT
運転適性検査(警察庁方式)とアイカメ
ラを活用し、社員各個人の運転適性を把
握・指導し事故を激減させた。 |
| | | 9:55 | |
| 2 | 自動車運転時ヒヤリハットの撲滅に向けて


東海旅客鉄道株三重支店
松阪工務区建築技術係 | 浅野 崇 | 安全運転の継続はヒヤリハットを減らす
事にある。そこで、優良ドライバーを指
導員とし、知識・技能教育を行った結果、
ヒヤリハットが減少した。 |
| | | (10:20~10:30 休憩) | 10:30 |
| 3 | 安全運転指導員による交通災害撲滅への取り組み

(株)日立製作所デジタルメディア事業部
品質保証部量産検査員 | 久我 繁 | 交通災害撲滅を目的とし、事業所内に安
全運転指導員を養成し、CSの観点から
マンツーマンによる安全運転の知識、技
能の向上を目的に継続的に実施。 |
| | | 10:55 | |
| 4 | 交通労働災害防止へのひとつの試み

姫路地区交通労働災害防止協議会会長 | 福嶋 三郎 | 死亡労働災害件数のうち、半数を占めて
いた交通労働災害を事業場と労働者の決
意表明等運動を組織的に推進することに
より、発生件数が激減した。 |
| | | 11:20 | |
| 5 | 交通事故無事故を目指して!!

松本南郵便局総務課課長代理 | 矢ヶ崎浩幸 | 交通事故防止の諸施策の実施にも関わら
ず、前年を上回る7件の事故が発生した
ことにより、職員に安全意識の高揚を図
るため、新たな施策を実施した。 |
| | | 11:45 終了 | |

交通危険予知活動トレーナー必携 2002



交通危険予知活動
トレーナー必携
2002

中 災 防 の 本

中央労働災害防止協会 編

B5判 178頁
定価: 本体2,000円+税(送料310円)

増加を続ける交通労働災害の防止は、今や全事業場の急務。本書はその対策として新しくカリキュラムされた交通危険予知訓練(KYT)を豊富なチャートを使って実践的に分かりやすく紹介した「交通危険予知ガイドブック」を最新のデータに基づき見直したもの。
最近の職場での実践に基づいた意見等を踏まえ、手法の改良や新たな手法の開発を掲載した。

ご注文は 中央労働災害防止協会 普及事業部へ

〒108-0014 東京都港区芝5丁目35の1
TEL 03-3452-6401(画) FAX 03-3452-2480